

わたしたちが運ぶのは未来です

運輸省

みなと しみず

発行所

第五港湾建設局
清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号
TEL 清水 <0543>52-4146(代)



清水港の夜景

清水港
「みなと色彩計画」進む

具体的なデザインについては、東海大学短期大学部東恵子助教授が中心となって進められており、概ね今後十年間の実施期間が予定されています。



コンテナクレーン (袖師埠頭)

清水港では、港の景観を色彩の面から整備する「みなと色彩計画」が実施されています。これは平成2年に女性の視点から、清水港の将来を考えたように開いた「レディス・マリナーフォーラム」の中で、「港内の色調が、美しい環境を殺している」との意見がきっかけとなりスタートしたものです。

この計画では、清水港を区域の機能に応じ八つのゾーンに分け、それぞれの特性に応じた配色になっています。

これに基づき、臨港地区における建物、港湾施設は、区域ごとのベースカラーを基調に清水港のシンボルカラーであるアクアブルーと白が施されたデザインに変わりつつあります。

主要な施設を紹介すると、清水港管理局のコンテナクレーン四基(袖師埠頭、興津埠頭)のうち一基が白とアクアブルーと濃紺に塗り替えられました。荷役機械、煙突など六十メートル以上の高さをもつ施設の配色は、航空法により赤と白の二色に限定されています。しかし、半径二キロメートル以内に同じ高さ以上の山があり、航空機が低空飛行をしないという理由で例外として免除されました。残りの三基についても三、四年以内に改装される予定です。

また、中部電力新清水発電所の煙突(高さ百五十メートル)、燃料タンク二基も同様に色彩統一されました。煙突については、土曜、日曜、祭日、イベント時の日没から午後九時半頃までライトアップされ、夜の港の景観を演出し



中部電力の煙突

ています。

現在既に民間企業等の全面的協力を得て五十四カ所の倉庫、工場などの塗装が完了又は実施中で、さらに検討中のものも多数あります。

日本三大美港の一つである清水港は、「みなと色彩計画」により、なお一層の発展が期待されます。

▼清水港

港湾文化活用調査 第二弾

清水港工事事務所は、前回「清水港周辺の港湾文化施設を発掘し、その存在を一般に広く認識してもらうことにより、清水港の文化と歴史を継承し、二十一世紀に向けた清水港の姿を検討する」のテーマで調査を行いました。

その成果の一つが、港と街にかかわる情報誌「Bay's」の発行でした。

今回は、昨年度に引き続きの調査であります。そのテーマを「夜景を、港の持つポテンシャルと考え、これを集客材料として捉え、港を観光資源の面からも整備する方策を考える」として、清水港港湾博物館（フェルケール博物館）に調査を委託しました。具体的な調査項目は次のとおりです。

(一)「港」と「夜景」との関わり

りと集客材料としての課題。①観光面から見た「清水港」の現状と課題。

②港湾文化施設の現状認識と集客のための課題。

③港湾施設、陸上施設、付帯施設の在り方と、整備方法。

④客船誘致のための問題点と今後の課題。

本調査も前回と同じく、東海大学海洋学部酒匂敏次教授を座長に、十二月八日各界の有識者十名による第一回委員会をフェルケール博物館で開催し、意見交換が行われる予定です。

今後、提案された意見、収集資料をもとに来年三月末までに、親しみやすいビジュアルな小冊子にまとめる予定です。

静岡県の港シリーズ(七)

土肥港

▼土肥町

土肥町、「とい」という地名は、その昔伊豆に先住していたアイヌ人の言葉で「土」を意味し、温泉が土中から湧き、金が産出され、二毛作に適した肥沃な土地であることから土肥の字が当てられたと言われている。

町の三方を天城山系に囲まれ、わずかに西方を駿河湾に

開けた当町は、四季を通して温暖な気候、雄大な海岸美と山岳美に恵まれ、素朴で豊かな自然環境に培われてきた町である。

現在の人口は、五千九百人余り(平成四年十月、県勢要覧)、温泉を中心とする観光の町でもある。



▼沿革

土肥町の名が、残されている最初は、天正年間に遡る。

天正五年、(一五七七)伊豆半島で最初の金山が土肥で発見され、この開発に伴い全国から採掘夫や商人が集まり、土肥の家並は一十戸を数える程繁栄し、港は毎日出船、入船で賑わったと記録されている。

近代的な港湾としての整備は、昭和四年の重要港湾指定を機に始まっており、屋形地区に防波堤、小型船用泊地を、また、大藪地区に防波堤を整備している。

大戦をはさみ、港湾整備は一時中断するが、戦後昭和三十三年からは、本格的に整備を再開、大藪地区の現在の形をみるに至った。

その間、予想される東海大地震の緊急物資輸送の基地として、マイナス四・五mの耐震岸壁の整備も終えている。

現在の主要な施設は、マイナス四・五m岸壁(耐震)一バース、マイナス四・〇m物揚場延長七〇m、マイナス三・〇m物揚場延長一〇八m、マイナス三・五mカーフェリドールフィン一バースとなっている。

港湾取扱貨物量は、平成四年において五十七万五千トン(うちフェリー貨物五十二万一千トン)でありフェリー貨物以外では砂利、砂等の鉱産品が大部分を占める。

定期航路は、田子の浦港と結ぶカーフェリー、沼津、松崎を結ぶ高速船が土肥を経由する。

土肥港のマリン・タウン・プロジェクト調査は、平成二年度に第五港湾建設局、県、土肥町が計画を策定している。

計画の中身としては、マリーナ、海水浴場、海浜公園、フィッシューマンズブーフが施設としてあげられている他、定期航路着桟施設としてのマイナス六・〇m岸壁及びターミナル施設等の整備が提案されている。

いずれにしても、土肥町の観光産業という特色を生かした形でMTP整備が進められることなるであろう。



土肥港

▼土肥金山

天正年間の発見以来、土肥の金山は金山奉行大久保石見守長安等により幕府直轄の金鉱として慶長大判小判の地金を産出し繁栄したが、元禄三年以後採金量の減少により衰退した。明治三十九年に入ると神戸の実業家長谷川桂五郎により土肥金山の開発に成功し、昭和四十年に金価格の据置きや経費増により閉山するまでに金四十トン、銀四百トンを産し、慶長以来のゴールドラッシュを土肥にもたらした。

この土肥金山も現在では観光事業に転身し、海抜一九〇m延長一〇〇kmにもおよんだ坑道の一部を公開し、当時の採掘人夫像や器具を展示する他、入口には鉱石資料等を陳列した資料館もある。

◆海事振興連盟が清水港視察

十一月十一日海事振興連盟(会長原田憲衆議院議員)の会長をはじめ衆参両議員六名が清水港の現状を視察された。

午前八時、こつぱん丸から下船された議員の方々は、少し肌寒いくもり空のなか、袖師埠頭コンテナターミナルを中心に港内視察をされた後、マリニビルで現況説明が行われた。

当局からは、望月事務次長、尾崎所長が出席し、斎藤静岡県出納長のあいさつの後、行政サイド並びに民間サイドからの概要説明があり、活発な意見交換が行われた。

このあと、午後一時清水港を後に新幹線で東京へ向かわれた。



日の出埠頭に接岸した「こつぱん丸」

◆港湾整備促進大会

十月二十日日本港湾協会主催による「東海地区港湾整備促進大会」が名古屋港湾会館で開催された。

平成六年度予算の確保、第八次港湾整備五箇年計画、第五次海岸事業五箇年計画の推進を目標とする大会であり、多数の港湾関係者が参加するなか、静岡県からは宮城島清水市長、下村御前崎町長、池谷下田市長らが出席した。

社会人となって感じたこと

下田義治



月日の流れとは早いもので今年四月に入省して半年が経ちました。

入省するまでは初めての社会人生活、今まで一度も来た事のない清水での寮生活と不安もありましたが、周りの皆さんの御指導と温かいお心遣いのお陰で、内気な私も職場に慣れる事ができ深く感謝しております。

現在、仕事は工務課で積算

を担当しています。最初は何をやっていいのかわからず、大変困ったものですが、皆さんの力添えと自分の努力によって、ちよつとは積算の事が分かってきたような気がします。それでもまだ一人前になつたとは言えないので早く一人前になるように頑張りたいと思います。

清水に来て良かったと思う事は、かつおの刺身や生しらすなどの魚がおいしく、今まで食べた事もない物も食べられたことです。そのせいで最近はこちらと太つてきてしまいました。

又、野球大会での優勝(自分は外野から試合を見ていただけですが)、先日の旅行会なども心に残っています。

今後も五建のため、ひいては日本のために精進、努力をしていきたいと思っております。よろしく願います。

工場だより

御前崎工場

▼全日本OPP級ヨット選手権の開催

10月31日～11月3日にかけて、全日本OPP級ヨット選手権大会(日本ヨット協会、日本OPP協会、御前崎町共催)が御前崎港沖で開催された。

OPP級とは、オペティミスト(楽天家)デインギーヨットの略称で、全長二・三メートル、幅一・三メートルの一人乗りの小型ヨットで、日本では八十クラブに二千四百隻、約千人の子供達が活動しています。

出場者は県内をはじめ全国各地から選抜された小中学生百八人が参加し、沖合いに設けられた三つのブイを回る約四・五キロの三角コースで争われた。

今大会に於いて、御前崎町教育委員会の依頼を受けた、当工事事務所所属の監督測量船「ふじ」が、御前崎周辺の海洋クラブに所属する小、中学生及び指導者を乗せ、レースの見学等の協力を行った。

3日間で計5レースが行われ、上位入賞者は、世界選手権、アジア選手権、ヨーロッパ選手権の派遣選手になること。今後の御活躍を期待しております。

また、地元御前崎、榛南地区より将来、世界選手権に出場できる選手が輩出されるよう選手、指導者の皆さん頑張ってください。(村松佳春)

下田工場

▼下田港の武ヶ浜浪除け

下田港の新下田ドックの跡地は、平成5年10月4日に最後まで残っていたクレーンが撤去されて台船で運搬されて行った。

それまでの赤錆た建屋やひとときは目立っていたクレーン等が奇麗サッパリと取り払われてイメージが一新された。この新下田ドックの跡地には、今から350年前前に建設された武ヶ浜浪除け(防波堤)が残っており、ここに至るにわかに史跡として永久保存をしようとの話が市議会議員の中から持ち上がった。

この浪除けは、江戸時代の下田奉行の今村伝四郎正長が、自分の俸禄(983両)を投げ出して工事を行い、三年の歳月を掛けて正保2年(1645年)に完成し、元禄16年・宝永4年・嘉永7年・安政元年の天津波を体験してきた防波堤である。第二次大戦前に旧下田ドックの移転にからんで、浪除けの一部が開削されて船渠となっている。



武ヶ浜浪除け

永久保存の話は、一市会議員が9名の市会議員の署名を添えて市長と県知事に「旧下田ドック跡地先にある武ヶ浜

浪除けの永久保存と市道の現状について」の要望書を提出した。また、これとは別に、市会議員 6 名を請願人とする「市道第 6 号線地先にある武ヶ浜浪除けの保存について」の請願書が 9 月の定例市議会に提出され、下田港調査委員会に付託された。

現在、同委員会は結論を保留し、市議会閉会中の継続審査に付すことに決しており、市民の関心も高まっている。

▼日本丸・海王丸同時寄港

二隻の帆船は、十一月一日から五日まで「帆船と産業フェア in しみず」のイベントの中で、清水海員学校開校五十周年を記念して、清水港（日の出埠頭）に寄港した。



入港する日本丸（三保沖）

同埠頭では、快晴のなか午前十時から行われた歓迎の記念式典では、当所尾崎正明所長を初め関係者多数出席のもと、宮城島市長のあいさつ、河原日本丸船長らに花束の贈呈があり、清水市消防音楽隊

の演奏による歓迎セレモニーが行われた。



左から海王丸、日本丸

両船は二三日の両日、一般公開とセイルドリル（帆を広げる訓練）が行われた。また、午後五〜九時の間ライトアップが実施され、夜の港の新しいデートスポットを作りだしていた。

同埠頭六号上屋では、「しみず商工フェア」と銘うって「工業コーナー」「商業コーナー」「インポートコーナー」が設置され、それぞれ電気スクーター、自動車各種照明の展示、アクセサリー・衣類・食品等の即売が行われた。

*帆船の概要

両船は、運輸省航海訓練所に所属し、商船大学校と商船高等専門学校訓練船として、生徒の航海実習に活躍している。

*日本丸

一九八四年建造
バーク型、四本マスト（海面上四九・二 m）

二五七〇総トン、全長一一〇・〇九 m、幅二三・八 m、エンジン一五〇〇 p s x 二基、定員百九十名（うち実習生百二十名）

*海王丸

一九八九年建造
バーク型、四本マスト（海面上四九・三 m）
二五五六総トン、全長一一〇・〇九 m、幅二三・八 m、エンジン一五〇〇 p s x 二基、定員百九十九名（うち実習生百三十名）



ライトアップされた両船

清水市漁協が
役員改選

新組合長に宮城島典典氏再選
清水市漁業協同組合（組合員五百二十五人）は、去る十一月十九日開催の臨時総会及びその後の理事会（十一月二十七日開催）において役員改選を行い、組合長理事に宮城島典典氏、副組合長理事に望月久雄氏をはじめとする理事 13 名、監事 3 名をそれぞれ

選任しました。

清水の史跡①

▼「赤い靴」の母子像

「赤い靴はいてた女の子」が始まるこの童謡は、野口雨情により作られました。

この歌のモデルになった女の子とその母親は清水市の出身です。明治三五年七月一日、母と子は北海道に渡り、やがて女の子はアメリカ人宣教師夫妻の養女となり、横浜の波止場から船に乗ってアメリカへ渡るはずでした。ところが不治の病にかかり、母とも離ればなれのまま九才の短い生涯を閉じました。

母子像（日本山頂）



生まれ故郷の清水市に帰りたいという市民の声が実を結び、全国七万人余りからの寄付をもとに、昭和六一年二月、清水を見下ろす日本平の一角に母子像が建てられました。

管内の動き

10月

- 20日 東海地区港湾整備促進大会
〔名古屋〕
- 25日 第5回清水港みなと色彩計画推進協議会
- 26日 第2回輸入促進地域（FAZ）整備計画策定委員会

11月

- 1日 日本丸・海王丸同時寄港
- 2日 第4回静岡清庵地域振興方策調査懇談会
〔静岡〕
- 4日 清水港多目的上屋基本計画調査委員会
- 11日 海事振興連盟清水港視察
- 18・19日 第27回管内港湾工事報告会
〔名古屋〕
- 24日 御前崎港船舶航行安全対策調査委員会
〔御前崎〕
- 25・26日 管内主管部長会議「四日市」
- 12月
- 3日 第3回輸入促進地域（FAZ）整備計画策定委員会
- 8日 第1回港湾文化活用調査委員会

★編集後記★

何となく慌ただしい季節になりました。寒さも日増しに厳しくなっています。

これから年末年始にかけてお酒を飲む機会も多くなることと思われます。おいしく飲むために力ぜをひかないよう気を付けましょう。

その一、睡眠時間を十分とる
その二、無理をしない
その三、朝食をとる